



シーニックバイウェイ北海道 大雪・富良野ルート



芝崎 拓 (しばさき たく)

大雪・富良野ルートコーディネータ
((一社)北海道開発技術センター 研究員)

1980年東京都生まれ。旭川の大学卒業後、富良野市にてアウトドア会社やグリーンツーリズムを推進するNPOで勤務。2005年にシーニックルートとして大雪・富良野ルートが指定され、ルートコーディネータを担当。富良野での経験を活かし、ルート内の地域資源の知識や人との交流を深めながら、シーニック活動に関するコーディネートを行っている。

大雪山・十勝岳連峰の景観や農産物が楽しめる「大雪・富良野ルート～四季を彩る花人街道～」の概要

大雪・富良野ルートは、旭川から美瑛や富良野、占冠を結ぶ国道237号をメインとした第1号のシーニックルートです。ルートは、旭川市、富良野市、東神楽町、東川町、美瑛町、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村の9市町村がエリアとなっており、ルートのテーマである「四季を彩る花人街道」からもわかるように、パッチワークのようにどこまでも続く丘の風景やラベンダーをはじめとする花畑などが全国的にも有名です。そのような美しい風景を守り活かす活動として、沿道の清掃活動や花植え、情報案内拠点の整備などの取組みを進めています。

ルートにはアップダウンを繰り返す「ジェットコースターの路」や沿道の白樺と十勝岳が美しい「白樺街道」などのここにしかない“みち”が点在し、四季折々のドラマティックな風景を楽しむことができます。



左：情報拠点「菊地晴夫写真ギャラリー」（美瑛町）
右：ゴミゼロキャンペーン活動



ジェットコースターの路（上富良野町）マップコード：349 667 245*74



白樺街道（美瑛町）マップコード：796 210 602*46

今までにない冬のアートプロジェクト「ウィンターサーカス～雪の魅力～」

新たな冬の魅力づくりとして、北海道の冬に最も身近な「雪」を活用し、アーティストが発案したランドアート（雪の芸術作品）を地域が協働で制作する「ウィンターサーカス」を実施しています。各地で行われる雪まつりなどの具象の雪像と差別化を図り、冬の景色や夜の魅力を活かした取組みとして、平成17年に旭川市西神楽の1会場で始まりました。その後、道の駅や企業との連携により今では全7会場となり、旭川から占冠までの広域にわたる取組みとなりました。10年目となった平成27年は旭川や美瑛、上富良野などの全7会場で作品を制作し、2月14～15日の午後5～8時を夜の観賞会として、作品のライトアップや映像の投影、温かな飲食の提供等を行うとともに、旭川駅からのバスツアーも実施しています。

「雪」という一過性の地域資源の活用と、アーティストと地域の交流による地域活性化の試みとして試行錯誤を続けています。



みち（作家：工藤みゆき）上富良野町深山峠



Silhouettes（作家：奥山三彩）上富良野町見晴台公園

さらに広がる連携の輪「人と未来をつなぐ100年の木プロジェクト」「大雪ぐるっと広域連携事業」

シーニックの連携は、ルート同士の連携にも発展しています。「人と未来をつなぐ100年の木プロジェクト」は、大雪・富良野ルート、十勝シーニックバイウエイの3ルート、北海道ガーデン街道が連携した取組みです。上川と十勝をつなぐ周遊観光の活性化を目的に、上川から十勝の幹線道路沿道に観光の道しるべとなる「サインツリー」を植樹する本取組みでは、現在までに約200本のサインツリーを植樹しており、取組みに賛同する企業との連携も始まっています。

平成25年からは上富良野町や上川町、鹿追町、上士幌町などの大雪山周辺の11地域が連携した「大雪ぐるっと広域連携事業」もスタートしました。大雪山の周辺地域に埋もれている魅力や固有の地域資源の掘り起し・活用をすることで、地域の特性を活かした広域観光を推進し、新たな観光ルートの確立やブランド化を目指しています。現在までに大雪ぐるっとマップの作成やホテルオークラ札幌と連携した食フェアの開催、札幌三越での地域特産品の販売、2泊3日の大雪山周遊モニターツアーなどを行っています。

おわりに

富良野や美瑛など全国的に有名な観光地を有している大雪・富良野ルートですが、シーニックバイウエイの活動・連携により、まだまだ新たな魅力が生まれつつあります。ぜひ、新たな魅力を体感しに、大雪・富良野ルートに遊びに来てください。



左：平成26年度の植樹風景（旭川市西神楽）
右：植樹後のようす（新得町・狩勝峠5合目）



左：札幌三越での「大雪ぐるっと美味もんマルシェ」
右：大雪周遊モニターツアー（上川町あさひ食堂）